

# 受注見据え投資活発

政府が打ち出した2018～20年にシネリック医薬品(後発薬)の数量シネア80%という目標が原薬業界にインパクトを与えている。後発薬向けの原薬メーカーは受注拡大を見据えて投資を積極化。また、中国やインドの企業も日本市場を虎視眈々と狙う。一方、昨年発覚した製剤メーカーによるGMP偽装問題により、当局の目は厳しさを増しつつある。数値目標は「時期尚早」との声もさやかれるなか、量と質を両立させるため各社が知恵を絞っている。「シネリック御三家」

## 医薬原薬・中間体 市場動向を追う

と称されることのある日工、沢井製薬、東和薬品。このうち、原薬を自前で調達できる体制をとっているのが日工と東和薬品だ。日工グループで原薬

を生産するアクティブファーマは、14年に24億円を投じて富山に原薬の新工場を完成させた。グループ全体で三つ目の拠点となり、敷地には増設の余地も残る。第1期工事分は16年度中にフル稼働に移行し、能力が倍増する見込みとなった。

**グループ連携体制**  
大地化成は東和薬品の100%子会社で原薬の開発・製造を担う。70億円を費やして15年に完成、稼働開始した兵庫の新工場は、姫路の既存施設に比べて6倍の生産能力を持つ。早くから原薬の自



東和薬品の原薬開発・製造子会社、大地化成は昨年、兵庫工場(写真)を建設し生産能力を大幅に高めた。……  
参加企業は医薬専門とは限らない。富士フイルムファイナケミカルズは2月、福島県の広野工場に原薬・中間体の新施設を建設すると発表、17年末の稼働を予定している。原薬の製造工程の一部移管を検討してきた東和薬品は、自社の原薬部門と子会社を連携させ、約100人体制で原薬開

# どうする「量」「質」の両立

社調達を検討してきた東和薬品は、自社の原薬部門と子会社を連携させ、約100人体制で原薬開

ジャパン ライフサイエンスウィーク 2016  
 CPhI Japan  
 4月20～22日 東京ビッグサイトで開催

半を中国やインドからの輸入に頼ることに「という意見も強い。将来を見据え、商社を介さず自らインドから原薬を調達するのがエーサイト。インドに自社工場を設け、原薬や製剤を輸入している。いずれはこの図式を、子会社エ

インド社も熱視線  
インドはいわずと知れたシネリック大国。インドのメーカーには世界最大の医薬品マーケットである米国で実績を重ねてきたという自負がある。原薬にとどまらず製剤で日本市場に打って出ようとするメーカーも少なくない。その先駆けといえるのがルビン。07年

インドの後発薬市場に本格参入した。昨年はインドで年産10億錠の新工場が完成。製剤の前段階に当たるバルク状態までインドで生産して日本で仕上げる姿勢を整えた。